

差出候得者、兩御所御意大坂之一首にて御感悦に被思召候、
豊後守在所二見より八道法国分へ八里計も可有之、其節
ハ大和へ押向申人数三万計とも五万はかりとも風聞申候、大和
国中之者とも皆々東之山中へ落散申候、扱大坂御帰陣以
後、島原へ六万石余にて被遣之候後病死仕候、松倉長門守ニ
無相違被仰付候事、筒井主殿儀伏見へ可参と山城之国之辺
まで被越候処に、世間の人々申ハ、主殿ハ一戦に不及郭を退由
風聞、依之道中より南都へ帰り興福寺之妙喜院にて切
腹被致候よし申伝る也

一、大坂落城之以後、兎角郡山に城無之候得ハ、如何と被思召候
て重て上意にて伏見の城を割、郡山へ御引被成候、水野
日向守に六万石被下、六年居城あり、城普請も大形日向守首
尾被仕候、日向守殿所替被 仰付、其跡へ松平下総守殿に十二万石
被下被差遣之、扱寛永三丙寅年 大樹公御上洛之刻、南都へ御
参詣可被遊由也、しかれは郡山に御一宿可被遊由にて、本丸御殿等
公儀より御作事并南都東大寺九折山の麓に御茶屋を建
候得とも御参詣無之、下総守殿二十年居城、寛永十六年己卯
に播州姫路へ所替被 仰付、其一両年前 公儀へ御願、領知之
内より三万石延高に成十五万石都合す、其後本多内記殿并
中務大輔殿・松平日向守殿・本多下野守殿在城也